

2022G7保健大臣宣言

概要

□ 2022年のCOVID-19パンデミックを克服するために

- 将来のパンデミックの予防と準備を支援するためには、WHOの持続的で信頼できる資金調達、そして国際協力と政治的コミットメントが不可欠である。
- WHO世界予防接種戦略と、2022年半ばまでに世界の予防接種率を70%にする目標を引き続き支持。

□ 新たな変異株とさらなる流行への備え（パンデミックへの備えに関するG7合意）

- パンデミック対策のための協約の一環として、我々は、統合的、相互運用可能かつ学際的なサーベイランスを実施。分野横断的なサーベイランス能力の開発を強化し、支援することにコミット。
- 人獣共通感染症の国際専門家パネルの作業による、ワンヘルスの共通定義を持つことを歓迎。
- 我々は、国際的に懸念される潜在的な感染症や健康上の緊急事態を調査するため、国際的な専門家による、時宜を得た、透明で独立した、WHO主導の調査に協力することにコミット。

□ 薬剤耐性という「サイレント・パンデミック」に立ち向かうために

- 我々は、AMRを共通の責任と認識し、AMRに対処するための活動を強化し、さらなる緊急かつ具体的な行動を取ることにコミット。
- 「WHOの世界の薬剤耐性・使用状況調査システム（GLASS）」への貢献と協力を継続することを約束。
- 新しい抗菌薬だけでなく、既存のものについても持続可能な市場を確保することが不可欠であることを認識。したがって、国内市場と保健システムにおける適切な措置を講じることにコミット。

□ 気候変動と健康 ～気候変動に強く、持続可能で、気候変動に中立な保健システム～

- 我々は、健康を守るために気候変動と闘うことが重要であることを認識。
- 世界中の保健医療システムがより環境的に持続可能で、気候変動やパンデミックなどの脅威に対してより備え、より強靱になる必要性を認識。
- 我々は、社会人口統計学、気候、環境、動物と人間の健康に関するデータ、早期警報システム、予見モデリング、リスク評価を統合し、気候の影響を受けやすい健康リスクや疾病の発生を早期に発見、対応できるような健康システム及びサーベイランスシステムの構築をめざす。
- 我々は、気候及び環境衛生の影響に関するG7公衆衛生機関の連携を促進する。また、「世界国立公衆衛生機関協会（IANPHI）」の「健康と気候変動に関する行動のためのロードマップ」を支持。